

# 政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和6年11月2/日

犬山市議会

議長 柴田 浩行 様

議員名 光 清 毅

下記のとおり、政務活動費により行政視察の成果を報告いたします。

|           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| (1) 年 月 日 | 令和6年11月14日(木)・15日(金)<br>(1泊2日) |
| (2) 場 所   | ・栃木県真岡市、宮城県大郷町                 |
| (3) 形 態   | 会派(創 犬 会)                      |
| (4) 内 容   | 別紙の通り                          |
| (5) 成果・提言 | 別紙の通り                          |



## 政務活動費成果報告書別紙

◇真岡市（面積：167.34km<sup>2</sup> 人口：78,571人）

### 職員DX人材確保・育成について

#### ○内容

- ・真岡市では、令和4年3月にDXビジョンの作成、令和5年5月にDX宣言、同年12月にDX条例を制定して、DXを推進している。
- ・DXの推進体制を整備するにあたって、組織・人材の両面から検討するため、DX推進本部会議、連絡会議、DX推進員と様々な階層で横断組織を構築している。また、専門のデジタル戦略課を新設している。
- ・人材面においては、各部署に中核となってとりまとめるDX推進リーダーが配置されるように、全職員に対する基礎研修と並行してDX人材育成研修を実施している。
- ・DX人材の育成基本方針のなかで、真岡市職員としての目指すべき姿を示している。
  - ①デジタル技術等を学び続ける意欲がある。
  - ②自らの業務をよりよいものに変革していく意欲がある。
  - ③課題解決のスキルがある。
  - ④前例にとらわれず変革による新しい価値を創出する意欲がある。
- ・DX人材育成基本方針では、職員研修、環境整備、評価・認定の3つの方策をとることとしている。
- ・職員研修では、基礎・マインドセット研修を4年間継続実施し、育成研修参加の意欲向上も図っている。その結果、定量・定性データの両方から職員のDXの理解度が向上していることが分かっている。
- ・DX推進リーダー育成研修においては、実際の課題をBPRワークショップを実施して、題材に業務改革案を作成している。（内3業務が実現済み）
- ・平成5年度からDX推進リーダー育成研修受講完了者をDXアドバイザーとして認定（21名）。研修に参加することを人事評価にも反映することにより、さらなる職員の意欲向上に繋げている。
- ・DX人材認定制度の効果は、実務的效果と環境整備的效果があり、DX推進の原動力となっている。

○成果・提言

- ・犬山市が今後進めようとしているD X推進にあたって、職員の人材育成のポイントについて担当職員より詳しく聞くことができ、具体的に理解することができた。
- ・市の人材育成基本方針の改正にあわせ、D X人材育成基本方針を定めるなど、目標設定を明確にして、D X人材の育成に取り組んでもらえるように提言していきたい。

## 政務活動費成果報告書別紙

◇大郷町 （面積：82.01km<sup>2</sup> 人口：7,519 人）

### 衛星を活用した水道管路の漏水調査業務について

#### ○内容

- ・大郷町の管路状況は、老朽化率が約70%となっており、老朽化の進行に直面している。近年、老朽化した石綿セメント管の破損等により、漏水が多く発生し修繕費等の費用も大きくなっている。
  - ・令和5年度の有収率は、84.1%と宮城県平均89.0%を約5%下回っている。
  - ・漏水調査業務費は、平成29年度から400万を超え、緊急修繕費は令和2年度から増え続けていて、令和5年度は2000万円を超えている。
  - ・共同発注にあたっては、令和6年5月に宮城県内11市町と福島県相馬広域水道企業団で共同発注協議会と事業者選定委員会を設置した。6月に公募を開始し、7月に公募型プロポーザル方式で事業者（ジャパン21）を決定した。その後、各事業体で契約を実施し、11月に調査結果報告を受けている。今後は、各事業体で漏水調査を実施して、その結果に基づき修繕工事を実施する予定である。
  - ・人工衛星を活用した漏水調査では、Lバンド波の水に反射する特性を利用して「特性データ」を得て、AIにより解析することによって、漏水している可能性が高い地点を推測している。
  - ・今回の調査では、大郷町において漏水している可能性の高い管路の総距離12.6kmと管路45箇所が解析された。
  - ・共同発注の効果としては、今回の手法により、町内全域を対象として漏水の可能性の高い箇所を抽出し、その箇所のみを現地確認することから、調査期間を短く、費用も大幅に削減できた。また、12事業体による発注で、スケールメリットが働き費用が大幅に削減されたうえ、国の交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）を活用して、漏水調査費用、音聴調査費用、修繕費用に充当することができた。
- さらに、宮城県が事務局となって、各市町の調整と事務負担軽減をになっている。

#### ○成果・提言

- ・最近、全国で導入され始めている衛星を活用した水道管路の漏水調査について、今年

度取り組んでいる自治体（町・県）の担当者から具体的な説明を受けることがで、大変参考になった。

- ・犬山市においても、水道管路の漏水対策は重要な課題であり、今後他の自治体と連携して、また、国の交付金の活用を検討して、このような先進的な取り組みを進めてもらえるように、機会を捉えて提言していきたい。